

## 【9】 出胎の月・日

[1] はじめに出胎の月日を記す仏伝経典資料を紹介する。

[1-1] 以下は「4月8日」とする。

- ①修行本起経 卷上；十月已満、太子身成到四月七日。夫人出遊過流民樹下、衆花開化明星出時、夫人攀樹枝便從右脇生墮地。大正03 p.463下（「明星出時」とするから、日が変わって4月8日の誕生と解釈した）
- ②異出菩薩本起経；太子以四月八日夜半時生。從母右脇生墮地。大正03 p.618上
- ③太子瑞応本起経 卷上；到四月八日夜明星出時、化從右脇生墮地。大正03 p.473下
- ④仏説十二遊経；仏以四月八日生。大正04 p.146下
- ⑤仏所行讚 卷1；時四月八日 清和氣調適 齋戒修淨徳 菩薩右脇生。大正04 p.001上
- ⑥過去現在因果経 卷1；四月八日（宋・元・明3本にしたがった場合。しかし入胎からすると2月8日がふさわしい）日初出時……、菩薩漸漸從右脇出。大正03 p.625上

[1-2] 以下は「2月8日」とする。

- ①過去現在因果経 卷1；二月八日（高麗版にしたがった場合）日初出時……、菩薩漸漸從右脇出。大正03 p.625上
- ②仏本行集経 卷7；爾時善覺釋種大臣、於彼春初二月八日鬼宿合時、共女摩耶相隨、向彼嵐毘尼園……。大正03 p.686上

[1-3] 日にちを示さないもの

- ①ブッダチャリタ；プシュヤ星座が吉の相を示したとき、誓願によって心清めた王妃の脇腹より、陣痛も病もなく、世の人々のために男子が生まれた。1-9 p.004
- ②仏本行経 卷1；于時仏星 適与月合 吉瑞応期 從右脇生。大正04 p.058中

[2] その他のインド撰述文献資料を紹介する。ここにはセイロンで著作されたものも含める。

[2-1] 次は「2月15日」とする。

- ①Dīpavaṃsa；正覺者はヴェーサーカ月の満月の日（2月15日）に誕生された（*visākhamaṣe puṇṇamāyam sambuddho upapajatha*）。p.106

[2-2] 「2月8日」とするもの。

- ①薩婆多毘尼毘婆沙 卷2；二月八日沸星出時生。大正23 p.510中
- ②大般涅槃経（40卷本） 卷30；如來初生出家成道轉妙法輪皆以八日（文脈からして2月である）。大正12 p.545上
- ③大般涅槃経（36卷本） 卷28；如來初生出家成道轉妙法輪皆以八日（文脈からして2月である）。大正12 p.790下

[2-3] 胎内におられた期間。「10月」とする。

- ①轉婆沙論 卷14；從兜術天終降生母胎、十月已満住林毘園生、即行七歩、二龍浴身、二十九出家、三十五得道、六年苦行已。大正28 p.523上

[3] 中国撰述文献を紹介する。

[3-1] 「2月8日」とするもの。

①歴代三宝紀 卷1；(莊王)十年仲春二月八日夜鬼宿舍時、於嵐毘園波羅樹下右脇而誕。大正49 p.023中

②唐護法沙門法琳別伝 卷中；仏莊王十年二月八日生者……。大正50 p.207下

②は「長房乃云、仏莊王十年二月八日生者、大為猛浪。若是二月不応論星。長房又云、仏以四月八日下託胎者、託胎既用周月、現生還是周辰、今言二月是亦非也。若周以十一月為正月、如来不容二月生、凡人正月胎即十月生、四月胎即正月生。仏俯同人世七月胎故乃四月生」という文章の一部である。すなわち周曆では11月が正月であるから、もし10ヶ月胎内にあるとすれば、4月に入胎した場合は2月に出胎することとなるが、11月を正月とすると、正月は2ヶ月早まることとなるから、正月に出胎したこととなるというのであろう。しかし如来は7月に入胎したのであるから4月に出胎したことになるというのであるが、もし胎内期間を10ヶ月として、上記のような計算をするなら、出胎は3月にならなければならない。上記の計算もよくわからないが、この4月も理解しがたい。

[3-2] 「3月8日」あるいは「3月15日」とするもの。

①大唐西域記 卷6；菩薩以吠舍佉月後半八日、当此三月八日。上座部則曰、以吠舍佉月後半十五日、当此三月十五日。大正51 p.902上

②釈迦方志 卷上；当此三月八日者。上座部云、当此三月十五日者。大正51 p.959下  
しかしこれは通常は2月に相当することは前述の通りである。

[3-3] 「4月8日」とするもの。

①釈迦譜 卷1；菩薩四月八日夜半明星出時生。身長丈六出十二遊經。大正50 p.010上  
；(大華嚴經云)十月満足於四月八日日初出時、夫人見彼園中有一大樹、名曰無憂…  
…即举右手欲牽摘之、菩薩漸漸從右脇出。大正50 p.016上

②唐護法沙門法琳別伝 卷中；准阿含經、……昭王二十四年甲寅之歲四月八日、於嵐毘園内波羅樹下、右脇而誕生。大正50 p.207上

③釈迦氏譜；十月満足、於四月八日日初出時於無憂樹下花葉茂盛、便举右手欲牽摘之、菩薩漸漸從右脇出。大正50 p.089中

④仏祖統紀 卷2；(周昭王)二十六年甲寅夫人懷孕將滿十月……、往藍毘尼園中、十月満足、四月八日、日初出時……菩薩漸漸從右脇出。大正49 p.142上 (注で在胎を十月としながら入胎も四月八日とするので、これでは十二月になる矛盾を注意している)